

都市再生整備計画

とかちがわおんせん
十勝川温泉地区

ほっかいどう おとふけちょう
北海道 音更町

(第3回変更)

平成28年12月19日

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	おとふけちよう 音更町	地区名	とからがわおんせんちく 十勝川温泉地区	面積	170 ha
計画期間	平成 25 年度	～	平成 29 年度	交付期間	平成 25 年度	～	平成 29 年度

目標

大目標 観光資源を活かした賑わいと活力のある十勝川温泉市街地の都市環境を官民一体で形成する。

目標1 歩いて楽しめる回遊性の高い温泉街の形成を図る。

目標2 地域住民と観光客の交流を促進し、賑わいのある観光拠点の創出。

目標3 観光客や地域住民など誰もが繰り返し訪れたい魅力ある緑と調和した温泉街づくりを図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

十勝川温泉は110年の歴史と北海道遺産「モール温泉」のある北海道十勝を代表する温泉地であり、周囲を都市公園や十勝川河川緑地に囲まれ、緑豊かな環境と広大な十勝平野や日高山脈を一望できる景観など、十勝の観光を代表する地域である。また、当該地区は、温泉地としての良好な市街地形成を図るため平成18年3月に市街化区域に編入され、観光入込客数は平成19年度の141万人をピークに年間ほぼ130万人台を維持しているものの、経済波及効果の大きい宿泊客延数は平成8年度の70万人をピークに減少傾向が続き、平成24年度には45万人まで落ち込んでいる状況となっている。

社会経済の悪化や大型ホテルによる館内完結型の経営形態により温泉街には倒産後廃墟化したホテルや、空き店舗、空地が目立ち、温泉街を歩く観光客が無く、賑わいのある温泉市街地のイメージとは逆行する寂れた印象の街並みとなっている。旅行の形態が団体型から個人型へと変化した。顧客のニーズに合った地域性のある観光サービスが求められていることから、地域資源や地域特性を活かした新たな観光素材の開発や地域住民とのふれあい等の充実を図るべく、音更町第5期総合計画(平成23年～平成32年)にて、「モール温泉」や十勝川温泉の知名度向上の取り組みを強化し、「また来たくなる温泉」「滞在したくなる温泉」「住みたくなる温泉」への地域イメージ作りを推進することとしている。

また、地元の十勝川温泉旅館組合では、温泉街に賑わいと活気を取り戻すために、地元コンサルタントや地元住民、行政などとの連携のもと、平成18年から約3年間にわたり温泉市街地周辺のランドデザインの検討を重ね、フットパスコースの整備や足湯めぐりのための施設増設、とちか帯広空港や音更帯広ICからの統一デザイン誘導案内看板の設置や各種イベントの開催等、様々な取り組みを行っている。

こうした活動と持続的な検討を経た中で、温泉市街地中心部の賑わいと活力を取り戻すため、官民一体となった十勝川温泉観光振興協議会を組織し十勝川温泉地区の再生に向け取り組んでいる。

課題

- 温泉街中心部に廃墟化したホテルが存在し、温泉地としてのイメージダウンと都市環境の悪化が進んでいる。
- 館内完結型の観光スタイルを進めてきたことにより、既存商店等が閉店し温泉街としての賑わいが失われている。
- 温泉街周辺には広域公園や都市公園、河川緑地があるが、温泉街に入ると一転して緑のない無機質な空間が広がるなど周辺環境との一体感がなく、温泉街周辺の豊かな緑を活用できていない。
- 温泉街周辺及び中心部にはフットパスが整備されているが、中心部には散策時の休憩場所もなく、温泉街を歩いて楽しむことができない。
- 温泉街には観光客と地域住民が交流できるスペースがなく、住民との交流を通じて地域の文化を体験したいという観光客のニーズに対応できない。

将来ビジョン(中長期)

- 官民一体型の都市再生事業の実施により、観光資源を活かした賑わいと活力のある温泉街を創出する。
- ホテルから出て歩いてみたくなる魅力的な温泉街への転換を図り、賑わいを創出する。
- 温泉街自体の魅力を向上させることで、周辺の広域公園や都市公園、緑地などとの相乗効果を高め、観光客の満足度向上を図る。
- 「また来たくなる温泉」「滞在したくなる温泉」「住みたくなる温泉」という地域イメージを確立する。
- 温泉街の入口と中心部に緑あふれる空間を創出し、温泉街周辺の公園、緑地、フットパスとの自然ネットワークを構築して緑をテーマに回遊できる温泉街をつくる。
- 温泉街中心部に北海道遺産であるモール温泉を満喫することのできる空間を整備し、観光客はもとより地域住民へモール温泉の魅力を発信する。
- 温泉や農産物といった地域資源を活かした健康増進・体験観光プログラム等を展開し、観光客と地域住民の交流促進による温泉街の活性化を図る。
- 自然エネルギーを積極的に活用し、環境に配慮した温泉街をつくる。

目標を定量化する指標

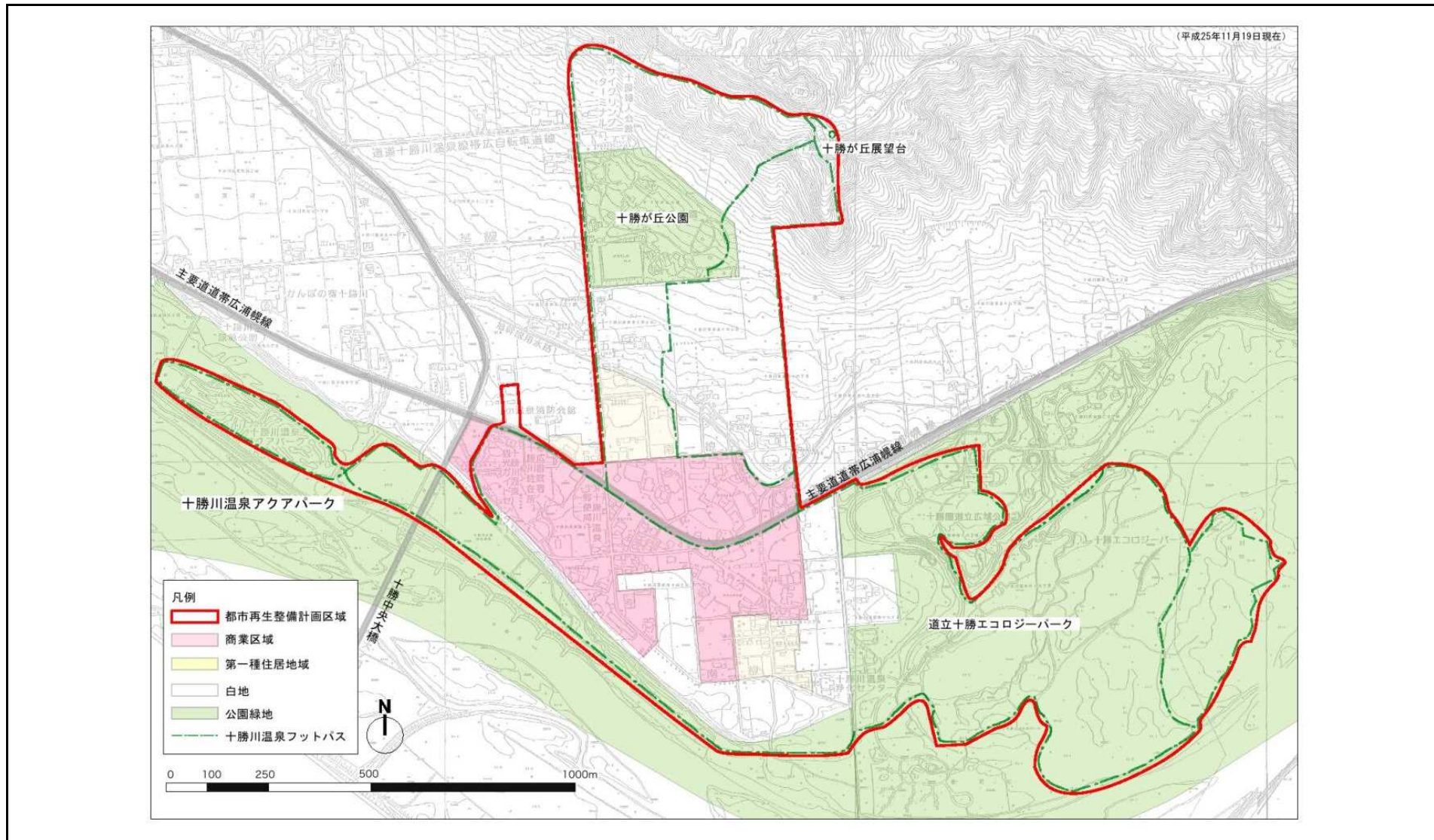
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
フットパス利用者数	人/年	フットパスコースを使ったイベントの参加人数	歩いて楽しめる回遊性の高い温泉街として魅力向上を目指す	291	H24	500	H29
宿泊客数	千人/年	都市再生整備計画区域内の十勝川温泉地区宿泊施設への宿泊客数	観光地としての魅力向上を目指す	307.4	H24	320.0	H29
観光客の満足度	%	十勝川温泉宿泊客へのアンケート調査による、十勝川温泉ホテル周辺環境の満足度で「満足、どちらかといえば満足」と思う人の割合	緑と調和した繰り返し訪れたい魅力ある温泉街として魅力向上を目指す	34	H25	50	H29

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業	
<p>・整備方針1 歩いて楽しめる回遊性の高い温泉街の形成を図る。</p> <p>館内完結型の観光スタイルによって市街地商店街の疲弊が進んだことへの反省と経験の上に立脚し、歩いて楽しめる街への転換を図る。温泉街入口や中心部に緑あふれる広場を整備することで、温泉街周辺の公園、緑地、フットパスルートを緑の回廊でつなぎ、歩いてみたくなる温泉街を目指す。</p> <p>廃屋となっている大型ホテルを解体撤去し、負のイメージを払拭する。</p>	<p>基幹事業(地域生活基盤施設)</p> <p>(道路)</p> <p>提案事業(地域創造支援事業)</p> <p>(事業活用調査)</p>	<p>中心多目的広場、ウェルカム広場</p> <p>エントランス緑地、スクエア広場、三角公園、情報板</p> <p>温泉南1線道路、温泉市街第2号道路、温泉東旭迂回道路</p> <p>廃墟ホテル解体撤去</p> <p>事業の効果分析</p>
<p>・整備方針2 地域住民と観光客の交流を促進し、賑わいのある観光拠点の創出。</p> <p>モール温泉や十勝・音更産の農作物などの地域資源の魅力を満喫することができる空間を整備し、観光客だけでなく、地域住民も日常的に楽しめる場を創出する。</p> <p>多目的広場や既存フットパスを活用し、健康増進・体験観光プログラム等を展開して観光客と地域住民の交流促進を図る。</p>	<p>基幹事業(地域生活基盤施設)</p> <p>提案事業(地域創造支援事業)</p> <p>(事業活用調査)</p> <p>(まちづくり活動推進事業)</p>	<p>中心多目的広場、ウェルカム広場</p> <p>廃墟ホテル解体撤去</p> <p>健康増進プログラム策定・検証、事業の効果分析</p> <p>中心多目的広場活用企画・検証</p>
<p>・整備方針3 観光客や地域住民など誰もが繰り返し訪れたい魅力ある緑と調和した温泉街づくりを図る。</p> <p>温泉街に緑と花で彩られた広場・緑地を整備することで温泉街自体の魅力向上を図り、温泉街周辺にある豊かな自然環境との相乗効果を高め観光客の満足度向上を図る。</p> <p>観光客や地域住民に十勝・音更の魅力を発信するため、小麦に代表される農産物や特産品のPRを目的とした市場を整備する。</p>	<p>基幹事業(地域生活基盤施設)</p> <p>提案事業(地域創造支援事業)</p> <p>(事業活用調査)</p>	<p>中心多目的広場、ウェルカム広場</p> <p>エントランス緑地、スクエア広場、三角公園</p> <p>廃墟ホテル解体撤去</p> <p>事業の効果分析</p>
<p>その他</p>		
<p>ランドホテル両宮館は平成21年3月、親会社の自己破産による連鎖倒産により閉館した。以降、破産管財人の処理(不調)を経て、2度の競売も不調となり廃虚化が進んでいたところ、平成26年3月、十勝川温泉旅館協同組合(※温泉を集中管理する大手ホテルが構成員となる協同組合法人)が当該資産を取得した。</p> <p>破産後5年が経過し、温泉街中心部に位置する旧両宮館が賑わいのあるまちづくりの大きな阻害要因となっていたほか、防犯上からも景観上からも対策を図ることが望まれていた。</p> <p>町と旅館協同組合では、官民一体型の都市再生事業の実施により、廃虚化したホテルを解体し都市環境の悪化を防止するとともに、十勝川温泉における観光振興の拠点施設整備を図るべく、検討作業等を進めてきた。</p>		
<p>昨今、音更町商工会では音更ブランド研究会を立ち上げ、地場産品開発等だけでなく、景観や自然環境も地域資源とし、ブランド化することなどに向けた活動も行っている。道東自動車道の音更帯広インターチェンジから十勝川温泉までの広域農道(幹線町道)ルートを景観街道化し、沿道での季節毎の農村風景やアクティビティを地域素材として情報発信するなど、もてなしサービスの向上を図っていくことの付加価値化を推進する動きも活発化している。十勝川温泉地区の中心市街地の再整備はこの街道の重点的な目的地として位置づけられている。</p>		
<p>温泉市街に隣接する道立十勝エコロジーパークでは、利用促進を更に図るため、指定管理者であるエコロジーパーク財団と温泉旅館組合(活性化委員会)を交えた公園の通年利活用に向けた利用促進協議も持続的に開催してきた結果、平成25年10月に通年開園化を内容とする北海道公園条例の改正が行われた。今後も協力して通年滞在型の利用増につながる活動展開の拡大が見込まれる。</p> <p>更に、道立十勝エコロジーパーク利用促進協議会生物ワーキンググループでは、数年前からエコロジーパーク内と周辺にタンチョウの餌場を設置する活動を展開しており、公園内でのタンチョウの越冬や幼鳥の巣立ちも確認されている。特にタンチョウの個体数は徐々に増えてきており、市街地にほど近い公園でありながらも天然記念物の生態が安定的に観察できる自然環境が整いつつあるほか、十勝川温泉地区の緑地や各ホテルの庭などにおいてもタンチョウを観察できる可能性が高まっており、新たな観光資源となる日も近い将来に期待されている。</p> <p>また、平成28年度から、十勝エコロジーパーク利用促進協議会により、エコロジーパーク1周自転車道構想の策定が進められている。音更町、池田町、幕別町、帯広市が中心となり、サイクリングによる新たな着地型観光資源の開発を目指して、検討・協議を重ねている。</p>		
<p>温泉市街南側を流れる十勝川及びその河川敷地は、十勝を代表するアウトドアアクティビティのフィールドとして認知されており、町をはじめ音更町十勝川温泉観光協会、十勝川温泉旅館協同組合など観光関係団体やホテル関係者等は、十勝川及びその河川敷地を重要な観光資源と位置付けて、有効活用を図ってきたところである。平成28年4月19日、温泉市街十勝川河川敷地に位置する「十勝川温泉アクアパーク」の区域内172,400㎡が、北海道開発局長により、「都市・地域再生等利用区域」に指定された。この指定により、オープンカフェ、自然体験活動等の営業活動を行う事業者等による河川敷地の利用が可能になったことから、都市再生整備計画事業との連携効果によって、交流人口の増加、消費の拡大など地域活性化に大きく寄与することが見込まれている。また、「都市・地域再生等利用区域」内は、地元関係者から更なる良好な水辺空間の整備が求められており、都市再生整備計画事業で整備される中心多目的広場等との連携による地域活性化を目指し、「かわまちづくり支援制度」の活用が官民共同で検討されている。</p>		
<p>都市再生整備計画区域内の都市公園「十勝が丘公園」隣接地において、十勝管内のチーズ工房等で組織する十勝品質事業協同組合により、ナチュラルチーズ熟成・加工施設の整備が計画されている。各組合員のチーズ工房が生産した凝乳(カード)を十勝川温泉のモール温泉水を用いて熟成させ、付加価値の高いラクレットチーズを生産するための施設であり、観光客等の見学に対応するとともに、生産されるチーズは中心多目的広場で販売されるほか、同広場でチーズを洗う加工体験も実施される予定である。</p>		

都市再生整備計画の区域

十勝川温泉地区(北海道河東郡音更町)	面積 170 ha	区域 十勝川温泉フットパスルートの区域
--------------------	--------------	------------------------



十勝川温泉地区(北海道河東郡音更町)整備方針概要図

目標	大目標 観光資源を活かした賑わいと活力のある十勝川温泉市街地の都市環境を官民一体で形成する。	代表的な指標	フットパス利用者数 (人/年)	291 (24年度)	→	500 (29年度)
	目標1 歩いて楽しめる回遊性の高い温泉街の形成を図る。		宿泊客数 (千人/年)	307.4 (24年度)	→	320.0 (29年度)
	目標2 地域住民と観光客の交流を促進し、賑わいのある観光拠点の創出。		観光客の満足度 (%)	34 (25年度)	→	50 (29年度)
	目標3 観光客や地域住民など誰もが繰り返し訪れたい魅力ある緑と調和した温泉街づくりを図る。					

